

独立行政法人日本学生支援機構

令和2年度「学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー」

○ 新型コロナウイルス感染症への対応と学生支援の課題 2020.12.11

新型コロナウイルス感染症と学生の心のケア

甲南大学文学部教授・日本学生相談学会理事長
高石 恭子



目次

1. はじめに
2. コロナ禍での学生の心理的経験
3. 学生相談におけるハイブリッド実施への展開
4. 今後に向けた学生支援の課題

1. はじめに

- コロナ禍で後期を迎えた大学と学生の学びの状況

- 授業実施方針の地域差

対面<遠隔（3割対面＋ほぼ遠隔） 北海道・東北 25.3%

関東 62.7%

近畿 35.1%

(文部科学省10.2 https://www.mext.go.jp/content/20201002-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf)

- 同一大学内でも学部差

例) 甲南大学 10.7時点 対面実施率 全体 76.1%

理系A学部対面100%～文系B学部ゼミ以外すべて遠隔

感染拡大状況の地域差、経時的変化、各大学の方針による差、専門領域による差、ハイフレックス化・・・多様性の中で最適解は常に変動している

- コロナ禍の後期を迎えた学生の社会への巣立ちの状況

- 10月1日時点の内定率 11.17発表

大学生**69.8%** (関東 74.4% >> 中国・四国 59.7%)

短大生27.1%

「リーマン・ショック後の2009年に次ぐ下落率」

厚生労働省・文部科学省 <https://www.mhlw.go.jp/content/11804000/000694851.pdf>

- 数値だけではわからない苦悩

6月時点の内々定率では < だった

男子大学生 7.3ポイント減 > 女子大学生 6.7ポイント減(昨年比)

航空、観光、ブライダルなど対人サービスを伴う多くの業界の採用減や募集

停止が与えた影響(参考:大学生とつくる就活応援ニュースゼミ 11.17)

https://www3.nhk.or.jp/news/special/news_seminar/syukatsu/syukatsu597/

人生設計の変更を迫られる学生、希望を失い燃え尽きる学生の増加

- 前期のさまざまな調査から注目された学生の状態

- 学生の1割が中程度のうつ状態(秋田大学)
- 孤独感や孤立感を抱えている学生が4割(九州大学)
- 約25%が後期休学を、約10%が退学を考えている(立命館大学新聞)

- 後期に向けた文部科学省の提言

「大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について(周知)」 令和2年9月15日

https://www.mext.go.jp/content/20200916-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

- 豊かな人間性を涵養する上で、直接の対面による学生同士や学生と教職員の間の人間的な交流等も重要な要素
- 新入生をはじめとする学生生活に悩みや不安を抱えた学生の把握に努め、**カウンセラーや医師等の専門家とも連携してきめ細かく対応を**

2. コロナ禍での学生の心理的経験

- 心理学からみたコロナ禍

大震災などと匹敵する自然災害。長期的に心に影響を及ぼす。ただ震災と異なるのは、徐々に、あるいは断続的に、個々人によって異なる形で傷つき何かを失っているという見えにくさと共通理解の難しさがあること。

- コロナ禍における喪失とトラウマ

内定取消、留学中止、部活動の停止、志望企業の採用停止、経済的逼迫、親の失職、感染またはその疑いによる差別や中傷、家庭内暴力など、深刻なトラウマを負った学生にとって、それらを乗り越えるためには長い年月と他者の支えが必要。

また、特別なトラウマ体験がなくても、すべての学生は、

本来あるはずだったキャンパスライフの喪失という体験の渦中にあることを、教職員はしっかり受け止めておく必要がある。

- 学生はコロナ禍の遠隔授業で何を得、何を失ったのか

- 【遠隔授業で学生が得たもの】

- ・地理的制約からの解放(遠距離通学者の学習時間の確保)
- ・心身の制約からの解放(障害や病気で通学できない学生の学習機会の増大)
- ・テクノロジーを駆使した新奇な体験
- ・内省的学習環境

- 【授業評価には表れないが失ったもの】

- ・対面コミュニケーションの非言語的要素(匂い、温度、肌触り、全身から伝わる気配)
- ・視線の一致(自分に向けられたまなざし)
- ・雑談やちょっとした逸脱、息抜き、ついで学び、終了後の余韻
- ・人、モノ、知、との偶然の出会い、異文化との交差

参考: 東京大学共生のための国際哲学研究センター主催 オンラインワークショップ
「遠隔教室」 2020.4.26 <https://youtu.be/ooN8nYvZhec>

● 喪失体験後の心の反応の経過

① 否認

コロナなんてたいしたことない、自分は大丈夫



② 怒り・イライラ

なぜ自分がこんな目に？ 悪いのは〇〇だ！



新型コロナウイルスの3つの顔 http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200326_006124.html

③ 取引

今は自分は△△を頑張ろう、そうすればきっとうまくいくはず



④ 抑うつ・無力感

もう疲れた、何をしても仕方がない……



⑤ 受容とアイデンティティの再構築

コロナ以前の自分や生活には戻れない
新しい生き方を探そう

多くの学生にとって、春休み中①～緊急事態宣言発令中②～前期活動制限継続中③～後期半ば、第3波到来の今は④が遷延化するリスクが高まっている。

- 学生生活サイクル(入学期・中間期・卒業期)によって異なるコロナ禍の喪失に対する自覚と反応

【今年の新入生】

- 入学式、ガイダンス、課外活動や学科の新歓への参加、学内探索、アルバイトの試みなどを通して先輩や仲間と交流し、徐々に修学・学生生活に適応し、親から自立していくプロセスを踏めていない
- そもそも自分が「何を失っているか」がわかっていない→「友達ができない」「つらい」「不安」という、漠然とした経験から、孤立感を深めやすい
- 他者と自分を比較できず、自分の位置がわからない
- 前期に遠隔授業と課題を頑張りすぎ「燃え尽き」る例が顕在化している

- 学生生活サイクル(入学期・中間期・卒業期)によって異なるコロナ禍の喪失に対する自覚と反応

【2回生～3回生前半】

- ・「コロナ禍以前」との比較において喪失を自覚し、それまでに築いた人的ネットワークで補填を試みることがある程度可能
- ・部活動で後輩を育てる経験、留学やアルバイトなどへの挑戦を通して自分の世界を広げる経験ができないストレス

【3回生後半～卒業期】

- ・先が見通せない社会への巣立ちの不安が加わり、喪失への反応の深刻度が高い
- ・卒業期の不登校(社会不安)が例年より遅れて顕在化、留年や休学の増加

3. 学生相談におけるハイブリッド実施への展開

- わが国の高等教育機関における学生相談機関設置率92.3% (鈴木他, 2019)
- 対面相談重視の学生相談はコロナ禍で授業以上の変化を遂げた

(杉原他, 2020 「コロナ禍における学生の心のケア」 /

日本学生相談学会 「学生相談の新しい様式へ」 大学時報11月号)

- 主な新しい取り組み

例) 新入生アンケート実施 → 1割のハイリスク学生に電話・メール支援、SNSを用いたウェブクラス結成支援、twitterでの情報発信、FD動画配信 → 4月、5月の新規相談申込 **1.8倍増** (名古屋大学)

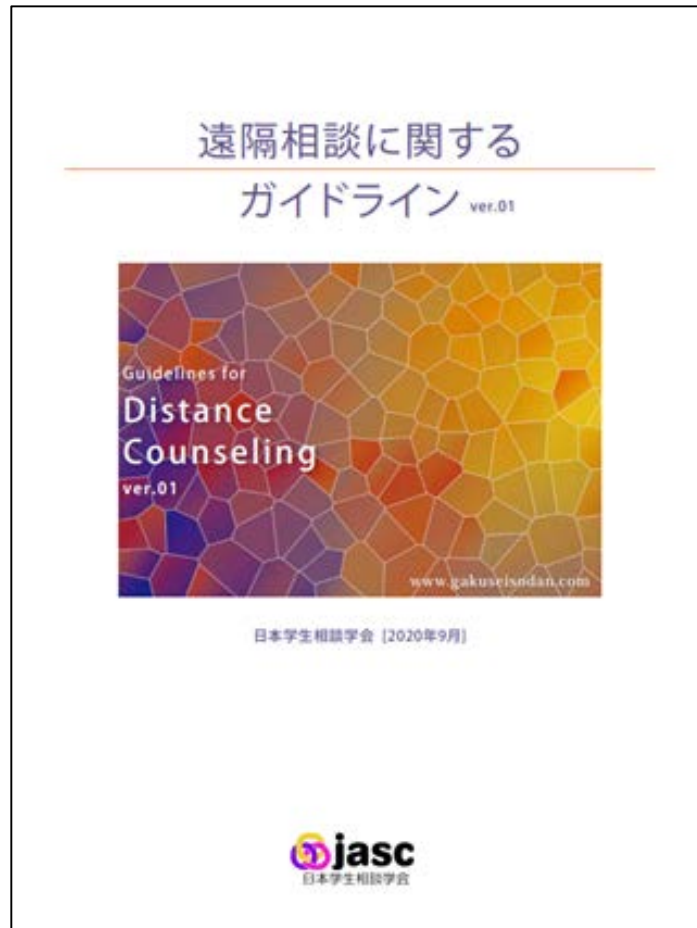
例) WEB学生サービスセンターでの心の相談 (大阪府立大学: メール、電話、ウェブ会議システムを用いたワンストップサービス) <https://websc.ao.osakafu-u.ac.jp/counseling/>

例) 学生相談室に「新型コロナウイルス対策緊急相談ホットライン」設置 (中央大学)

(大学時報9月号 特集 コロナ禍における大学の取り組み)

「遠隔相談に関するガイドライン_{ver.01}」

https://www.gakuseisodan.com/wp-content/uploads/2020/10/enkaku_soudan_guideline_ver01.pdf



【要点】

- ・ 本学会が発信してきた内容と、アメリカのHigher Education Mental Health Alliance (HEMHA)による遠隔相談ガイドを参照しつつ、我が国の学生相談への適合性を考慮して作成。
- ・ 遠隔相談を「相談者とカウンセラーが別々の場所にいる状況で、何らかのコミュニケーションツールを用いて行われる相談活動」と定義する。**電話、メール、チャット、ウェブ会議システム等による相談**が該当する。
- ・ 遠隔相談は、単に対面相談の代替手段ではなく、多様な相談方法の一つと考える。
- ・ 遠隔相談特有の利点・リスク・留意点、倫理などを理解し、適切に利用できる力を身につける必要がある。

例) 関西の中規模私立総合大学学生相談機関の取組みの状況(甲南大学)

- ・学生入構禁止期間も予約カウンセリングは例外措置による対面実施継続
- ・前期は電話相談を主、対面とWeb会議システムによる相談も行う
- ・後期は対面を主、電話とWeb会議システムによる相談も行う
- ・教職員はメールコンサルテーション有
- ・5月に特設サイト開設

利用案内動画、新入生支援、就活生支援、

FD・SD資料、コロナストレス対処法、

健康支援、カウンセラーのエッセイなど

<https://konan-gakuso.wixsite.com/tokusetsu>

- ・後期は対面グループ活動再開・新入生入門授業実施協力・居場所支援あり
- ・前期は遠隔、後期はハイブリッドの少人数正課授業の提供
- ・前期授業改善アンケート自由記述の分析から特設サイトコンテンツの作成へ



4. 今後に向けた学生支援の課題

- 重要な課題

- とりわけ新生に「キャンパスライフ」を提供する努力を続けること
- 孤立化する学生(とくに一人暮らし、過年度生など)に支援の手を届かせること
- コロナからの復興(Build Back Better)後の社会へ巣立つ道筋を示し、そのための支援を行うこと

- 必要な視点

- コロナ禍の体験や喪失への反応が今後いっそう多様化・個別化していくなかで、学生一人ひとりにまなざしを向け、その成長を支えること
- そのために、新たな方法の導入に取り組み、ハイブリッド型の学生支援の実践と研究を重ね、成果と問題点を明らかにしていくこと

- コロナ禍の学生の心のケアのために私たちができること
 - 学生相談のさらなる活用
 - 学生相談は「個別教育」の一環であり、すべての学生に向けられるもの
 - 学生一人ひとり個別の内面に向き合う専門家＝学生相談カウンセラー
 - 全学的支援の設計と学生相談の知を循環させること
 - 意思決定の過程に学生相談からの情報をどう活かすか
 - 大所からの施策の網の目からこぼれる学生を救えることこそが大学力
 - そして、私たち教職員が自身の心をケアすること

文献・資料

- 日本学生相談学会編 学生相談ハンドブック【新訂版】 学苑社 2020
- 鈴木健一他 2019 「2018年度学生相談機関に関する調査報告」
学生相談研究 39(3)
- 「コロナ禍における名大学生支援センターの相談実態と今後の(重要)課題」
令和2年記者懇談会配信資料 2020.8.3 http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/social-gathering/upload_images/20200803.pdf
- 杉原保史他 2020 コロナ禍における学生の心のケア(座談会)／ 日本学生相談学会
学生相談における遠隔相談導入に関する検討チーム 「学生相談の新しい様式へー新型コロナウイルス感染症の影響下における日本学生相談学会の取組みー」 大学時報
2020年11月号(第395巻)小特集 コロナ禍における学生の心のケア 日本私立大学連盟 <https://daigakujihou.shidaiaren.or.jp/>
- 「現代思想」 2020年10月号(Vol.48-14)特集 コロナ時代の大学 青土社
- 日本学生相談学会ウェブサイト <https://www.gakuseisodan.com/>

